1977 年 12 月 3 日第三種郵便物認可（毎月 1・2・3・5・6・7 の日発行）2012 年 2 月 17 日発行 SSKP 通巻 4988 号

ＳＳＫＰ はれのちくもり

棕 櫚 亭 通 信 第 63 号

立春はすぎてもまだ寒すぎるほどの気候の中ですが、多摩棕櫚亭協会においては、各施設での新しい取り組みを開始する一方で、今までの活動を継続していくことに尽力しており、職員一同、目まぐるしい日々を送っております。

そんな各施設の動きやお知らせなどを含め、来年度以降の棕櫚亭を見据えた動向をできる限りお伝えできればと思います。

就労移行支援事業所

「ピアス」・「トゥリニテ」の今後につきまして

通所授産施設として就労支援を行ってきたピアスと、小規模通所授産施設としてレストラン運営を行ってきたトゥリニテが、一体となって就労移行支援事業に事業移行してから今年で 5 年を迎えました。その間、棕櫚亭はこれまでの補助金・委託事業とは違う個別給付事業（1 日何人通所したかで毎月の収入が変わる）を運営していくという、新たな課題に取り組むこととなりました。加えて、開所以来の就労支援の実績や質も変わらず維持していくために、想定していた以上の工夫や変化が必要となりました。

これまでに取り組んだ大きな変化としては、それまでの就労トレーニング種目であった弁当宅配・環境整備・喫茶部門に加えて事務補助部門を始めたこと、その間にはメール便宅配をトレーニングとして取り組んだ時期もありました。また、新規入所の方の受入れ方法についても、ピアスに一元化したり、または両方で受け入れたりと、いろいろと試してきた 5 年間でした。特に 22 年の後半からは、新規に入所してからのおおむね 3 カ月を定着支援期として正式に設け、通所に不安のある方にも対応してきた結果、入所直後の利用中断者がかなり減るという効果もでてきました。

さて 24 年度以降に向けては、さらに雇用状況の変化をふまえ、ピアスでの事務補助部門により一層力を入れ、多くの希望者が利用できるようにしていく必要性を感じています。また、なかなか職場実習先の開拓が進まない中、多くのお客様に利用していただいているレストラントゥリニテのメリットを生かし、職場実習的体験が提供できるようにしていきたいとも考えています。従って、4 月からは新規入所をピアスで全面的に受け入れ、ピアスを基本トレーニングの場としていく方針を掲げました。一方のトゥリニテは、基本トレーニングを経たメンバーの職場体験・実習の場とし、より職場に近い環境でのトレーニングを提供していく方針です。ゆくゆくはトゥリニテを外部の紹介機関からの実習利用等にも広げていきたいとも考えています。

個別給付事業を経営していく上で、これでいいのだという安心感は相変わらず得られませんが、就労支援の成果に関しては実績が認められ多くの加算をいただいております。これからもより一層、就労を希望される精神障害者の方に、適切な就労準備訓練を提供していきたいスタッフ一同考えています。関係者の皆様には、これまで両者の違いがわかりにくかったり、またこの機能の変更をすることで逆に使いづらくなったりと、いろいろとご迷惑をかけるかと思いますが、これまでと同じように見直しながら改良していくつもりでおりますので、どうぞご理解ご協力をお願い致します。

1977 年 12 月 3 日第三種郵便物認可（毎月 1・2・3・5・6・7 の日発行）2012 年 2 月 17 日発行 SSKP 通巻 4988 号

セミナーのご報告

精神科医療機関就労支援研修セミナー

『明日に繋がる精神障がい者の就労支援を学ぶ』を開催いたしました。

今年度東京都より東京都精神科医療機関就労支援研修事業を受託いたしました。精神科医療機関で従事している方を対象に研修を行うことで『就労支援』ついての基礎知識を習得して頂き、精神障害者の雇用の促進することが目的です。

第 1 回　平成 23 年 5 月　、第 2 回　平成 23 年 7 月 14 日
第 3 回　平成 23 年 10 月 12 日
　前半　ハローワーク、就業・生活支援センターオープナーによる精神障がい者を取り巻く雇用状況について
　後半　就労移行支援事業ピアスのトレーニング見学・利用者体験談・意見交換
第 4 回　平成 23 年 12 月 8 日
第 5 回　平成 24 年 1 月 19 日(予定)
　企業見学会　東京グリーンシステムズ株式会社、トーメンエレクトロニクス株式会社へ訪問　会社概要説明、職場見学、質疑応答(障がい当事者、雇用側)

すでに、4 回行なっており、のべ 60 名以上の方に参加していただいています。参加者の方々には大変好評をいただいております。

- 『就労準備の段階で何が必要なのか、整理できる話だった。病院デイケアで何が出来るか考えるきっかけになった』
- 『ハローワークの話やオープナーの支援で前向きな変化を知ることが出来てよかった』
- 『実際に利用している方の話を聞けたのはよかった』
- 『トレーニングが構造的でわかりやすいシステムだった』
- 『利用者の状況がデイケアとあまりギャップがなかった。医療側が壁を作っていることもあるのではないか』
- 『施設見学では実際にトレーニングをしている場面を見ることができ、病院でも就労を希望する患者さんと面接する際の参考になった。』

詳細についてはホームページに報告をのせていますのでそちらも併せてご覧ください。

今回参加いただいた方々にいろんなお話を伺う事が出来ました。その中で印象的だったことは『医療としては治療が優先で就労の優先順位は必ずしも高くない』こと、『福祉が自立支援法で変化を迫られたように、医療もどんどん変化している』ことでした。しかし、その状況の中でも多くの方に参加していただきました。そのことが、個々では治療だけでなく、精神障がい者の『就労』や『生活』、『幸せ実現』に関心を持ち、行動していただいていることを感じられ、とても心強く感じることができました。今後ともこのような活動を通じ『医療と福祉と雇用』を繋ぐ橋渡しのお手伝いができたらと思っております。

研修事業担当　吉本佳弘

1977 年 12 月 3 日第三種郵便物認可（毎月 1・2・3・5・6・7 の日発行）2012 年 2 月 17 日発行 SSKP 通巻 4988 号

生活支援の現場より

様々な動きを見せる「就労支援」の一方で、棕櫚亭では「なびぃ」と「棕櫚亭Ⅰ（だいいち）」が、「生活支援」の部分を担い、「住み慣れた地域で安心した生活ができる」そんなサービスを提供しています。

両施設とも地域活動支援センターと呼ばれていますが、「なびぃ」はⅠ型（いちがた）、「棕櫚亭Ⅰ」はⅡ型（にがた）と、種類が違い役割も異なっています。

地域活動支援センターⅠ型 なびぃ

「なびぃ」は、相談支援事業をサービスの中心に据え、電話相談、面接相談、必要があれば訪問や同行支援などのアウトリーチサービスも行なっています。精神科病院から退院したばかりの方や、長い間自宅に引きこもっていた方などが、地域への第一歩を踏み出すきっかけ作りとしてなびぃをご利用される事が多いです。

地域活動支援センターⅡ型 棕櫚亭Ⅰ

「棕櫚亭Ⅰ」では、少しずつ元気になった方々が、作業やプログラム活動を通して、「生活のリズムを整える」「仲間と話す事でコミュニケーションの力を育む」などをしながら、より自信を回復し、「住み慣れた地域でその人らしい生活をしていただく事」をサービスの目標としています。

両施設とも同じ「生活支援」を担っていますので、日々の連携も頻繁にあります。ある方が「なびぃ」で、数回の相談を繰返す中で、「どこかに通いたい！」という気持ちになり、「棕櫚亭Ⅰ」をご紹介するという事は、利用者支援の中でよくある連携の一つです。

さらに、合同でプログラムや勉強会を開催するという連携もあります。「見学ツアー」と称したプログラムは、毎年 2 回開催し、立川、府中、昭島などの近隣の福祉施設の見学に行きます。このツアーは今年で 3 年目を迎えますが、就労継続 B 型の事業所やグループホームなど、利用者の方々が、なびぃや棕櫚亭Ⅰ以外の施設を知るいい機会となっています。また、今年はこの「見学ツアー」の番外編として、「WRAP（ウエルネス・リカバリー・アクション・プラン　通称ラップ）」の研修を行ないました。WRAP とはアメリカで精神しょうがい当事者の方々が開発したもので、日本語に訳すと元気回復行動プランといいます。

当日は、WRAP ファシリテーターの増川ねてるさんを講師に迎え、なびぃ・棕櫚亭Ⅰ合わせて、20 名近い参加がありました。「病気を抱えつつも、元気であり続けるにはどうしたらいいのか？」などをテーマにしながら、自分たちの体験談や日常の工夫を話し合い、研修も盛り上がりをみせました。参加者からの感想も好評なので来年度以降も WRAP は継続していく予定です。

「生活」と一言で言っても、人それぞれで異なり、その支援となれば、100 人 100 様となります。その 100 人 100 様を大切に、「なびぃ」と「棕櫚亭Ⅰ」は連携をしながら、棕櫚亭のみではなく国立市全体の生活支援の充実を目指し日々の活動をしています。

1977 年 12 月 3 日第三種郵便物認可（毎月 1・2・3・5・6・7 の日発行）2012 年 2 月 17 日発行 SSKP 通巻 4988 号

棕櫚亭からのお知らせ

２月２３日（木）～２４日（金）　地域活動支援センターⅡ型 棕櫚亭Ⅰ主催

メンバー・職員合わせて１泊２日の箱根旅行を予定しています。

３月９日（金）　ハローワーク立川/就業・生活支援センターオープナー主催

多摩就労ネットワーク連絡会議

「働きたい！を応援する…働く当事者からの実践報告セミナー」

ハローワークからは最新の雇用情報、雇用事業所からは障害者雇用の実践報告に加え、働く当事者の方からの体験談を共有いただく会となります。

３月１０日・２４日（土）地域活動支援センター なびぃ主催 家族講座

「病気と薬について」（国分寺すずかけ心療クリニック院長 藤田英親 医師）

「家族 SST～家族の関わり方」（家族 SST リーダー 高森信子 先生）

家族として「病気や本人」とどのように向き合うか、をともに考える会となります。

３月～４月頃　喫茶トゥリニテにて、棕櫚亭Ⅰ主催の絵画展を予定しております。

→詳細は棕櫚亭ホームページ内の「研修ページ」をご覧ください。 http://shuro.jp/

多摩棕櫚亭協会　冬の節電計画

多摩棕櫚亭協会では夏季に引き続き、冬季も節電に取り組んでいます。法人全体の計画としては以下となります。

1. 電力消費は、エアコン等・空調関係の使用状況で大きく変化するため原則設定温度を「23℃」とする。
2. 熱効率の高いファンヒーターに一部切り替える。

今年は昨年に比べて館内温度が低く感じるため、利用者の皆さんにはご迷惑をおかけいたしますが、重ね着をしていただくなどご協力をいただいています。

東日本大震災から早いものでそろそろ 1 年が経とうとしています。まだ避難所や仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方も多いと聞きます。復興にはまだまだ年月がかかると思いますが、棕櫚亭も社会福祉法人として、この大震災事の復興にできる事をコツコツと続けていきたいと思います。

【編集】 国立市富士見台 1－17－4 ピアス内
はれのちくもり編集委員会　Tel 042-575-5911
【発行】 特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 世田谷区砧 6－26－21　Tel 03-3416-1698
【定価】100 円

編集部より

○ 次回号は、春頃発行予定です。

○ 掲載内容：
新年度体制のご挨拶などを予定しております。